

園だより

1月号



令和6年1月9日
新宿区立西戸山幼稚園
園長 佐藤 淳穂

新年あけましておめでとうございます

—冬のどんぐり—

園長 佐藤 淳穂

新年の幕開けは、大きな地震、飛行機事故等の災害により、気持ちの晴れないスタートとなりました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。一日も早く、平穏な日々となるよう願ってやみません。

平素の備えや毎月の避難訓練の重要性、ご家庭との連絡体制や地域・関係機関との連携の大切さを再認識しています。私たちは地球という星で奇跡的に生かされているのだということを感じずにはられません。日々の当たり前前の生活に感謝しつつ、皆様と手を取り合って子どもたちの生活を守っていきたいと思います。

「幸せって何ですか、とよく聞かれるけれど、幸せの定義なんてない。幸せとは、何か起こった時に感じるものではないか。」これは、正月の番組内での医学博士・解剖学者 養老孟司氏の言葉です。昨年うちに収録されたものですが、今の状況下、私の心に響きました。続けて、養老氏は「自分が幸せだと感じるのは、虫を見つけたときかな。思いがけない虫が採れた時に幸せを感じる。」と笑っていました。昆虫好きで知られる養老氏ですが、80歳を超えてなお、虫を追いかけるお姿に、休み中もカエルやカマキリの世話をしていた私は元気づけられました。

冬休み明けの園庭では、すっかり葉を落としたどんぐりの木が子どもたちを待っています。風が吹く毎に黄金色の葉がはらはらと舞っていた先月のこと、毎朝の落ち葉掃きを一部見合わせてみると、子どもたちは一面のどんぐりの葉を山積みにしたり、それを囲んで歌を歌ったり、辺りにまき散らしたりして楽しそうでした。実は私たちには、ひそかに温めていたプロジェクトがありました。「園庭の落ち葉による腐葉土づくり」です。どんぐりの葉は腐葉土に適していると知り、成功すれば畑やカブトムシの飼育に役立ち、SDGsにもつながると考えたのです。黒いポリ袋を広げると、子どもたちは夢中になって落ち葉を集めてくれました。好奇心に満ちたワクワクする様子は虫の話をする養老氏と重なります。



進級・進学に向かい、園生活も熟成する3学期です。腐葉土ができるまでには数か月がかかるそうですから、子どもたちと一緒に陽に当てたり水分を補給したりしながらじっくりとプロセスを楽しみたいと思います。子どもも大人もウエルビーイングを目指して、よい一年にいたしましょう。本年もどうぞよろしくお願いいたします。